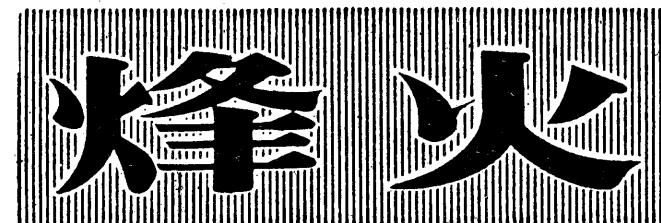


帝国主義の侵略反革命を粉碎し全世界の帝国主義を打倒せよ！　スターリン主義との国際党派闘争を組織し、世界プロレタリア革命—世界プロ独立・共産主義を組織する世界唯一の党を国際階級闘争の最前線に躍進せよ！

今号の内容

ニカラグア革命7周年に連帯し  
米帝の軍事侵攻策動を粉碎せよ  
.....P1~5  
A·A·LAの人民闘争.....P6~7  
(古典学習)①共産党宣言.....P8

1986年  
6月30日  
第371号  
編集発行人 高木一夫  
一部 200円



共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄東2丁目2の31  
とみやビル15号 Tel(06)371-3706  
○郵便振替 大阪3-63333 高木一夫  
○銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫



京都で労働者集会

500人が参加 6·23

性を、朝鮮戦争時の軍艦荷役拒否闘争や、現在の大坂湾への自衛艦入港阻止闘争の紹介をとおして提起した。主催者を代表して全金京滋地本規模別共闘の山田議長は、中曾根は、猿まわしの猿であり、自民党はその綱だ、猿をあやつる資本家階級とたかわなければ何も変わらないと訴えた。最後に「資本家の利益のための戦争準備とたかおう」などを呼びかける集会宣言を探査し、雨中のデモに移った。

ニカラグア革命7周年に連帯し  
米帝の軍事侵攻策動を粉碎せよ

一九七九年、ニカラグア人民がソモサ独裁を打倒してから七年がたとうとしている。

米帝・レーガンによるニカラグアへの軍事侵攻の危機はますます増大している。中南米とりわけ中米を「アメリカの裏庭」としてきた米帝は、ニカラグア革命が生きのび、中南米諸国に革命が波及していくことを恐れている。

八三年一〇月、米帝はカリブ海に浮かぶ小国グレナダの革命政権（七九年三月成立）に対して軍事侵攻をおこなった。レーガンはこれを「友人への援助」と強弁した。いま米帝はニカラグアのサンディニスタ政権を「近隣諸国を攻撃する共産主義テロリスト」と批難し、一握りのソモサの残党コントラ（反革命ゲリラ）を「自由の戦士」といいくるめ、これへの支援は「自衛行為」であると囁いている（八五年二月「一般教書」）。

米帝の軍事侵攻の危機は目前に迫っている。とりわけここ数年の中南米における深刻な経済危機と諸国内での民主化の気運をもふくめた階級闘争の激化をして、米帝は何としてもニカラグア革命の息の根をとめ、中米の安定支配をとらむぞしたいと望んでいる。

米帝のニカラグア軍事侵攻を阻止し、ニカラグア人民の共産主義へむけた苦闘に連帯することは、全世界のプロレタリアート人民の任務である。七周年を迎えたニカラグア革命に連帯する運動をさらに強化しよう。（次頁につづく）



革命防衛に起つニカラグア人民(5月)

## 切迫する米帝の軍事侵攻の危機

いま米帝・レーガンは総額一億ドルにのぼる財政・物資援助、米軍とCIA（米中央情報局）による軍事訓練などを柱とするニカラグア反革命ゲリラ（コントラ）援助法案をやっさに成り立させようとしている。

### 一億ドル軍事援助でテコ入れ

一億ドルという額は、八一年にCIAを通じて米帝がコントラに援助を開始して以降の援助総額に匹敵する数字である。しかも一億ドルのうち七千万ドルは攻撃用兵器を中心とする軍事援助である。また大統領がCIAやペントAGON（国防総省）をもこの計画の遂行のために「使用する」ことを承認するという内容を法案はふくんでおり、全体としてきわめて侵略的性格の強いものとなっている。コントラへの軍事援助は、CIAのニカラグア・コリント湾機雷封鎖（八四年）への関与が暴露されてからは、建前上は「人道的援助」に限定され、昨年二七〇〇万ドルの援助法案がようやく議会を通過したという経過がある。これと比べると今回の一億ドル軍事援助は、米帝・レーガンの局面打開のために大規模なコントラへの軍事援助が必要だという危機感がむきだしになっている。



昨年のボン・サミット直前の対ニカラグア経済封鎖や前述の「人道的援助」などが決定的な成果をあげることができないという情況のなかで、レーガンはコントラへの軍事援助増強政策をおしすすめてきたが、国内外の反応はレーガンにとって必ずしも好ましいものではない。今回の一億ドル援助をめぐって中南米諸国から、レーガンの思惑をこえた反発と批判がいっせいに吹きだした。援助法案の議会提出直前のレーガン演説（本年三月一六日）に対し、アルゼンチンを訪問中であったガルシア・ペルー大統領は「厚かましいキャンペーンでラテンアメリカ全体を侮辱するものだ」と激しく批難した。他

の中南米諸国もおしなべて、米国のコントラ援助の中止は中米和平にとって不可欠という態度を示している。そして何よりもアメリカ議会下院で三月二〇日、反対一二二、賛成二〇の小差ではあったが、コントラ援助法案は否決されてしまったのである。

国内外の反対を背にレーガンは必死のまきかえしをはかった。

三月二五日、米帝は「ニカラグア政府軍一五〇〇人がホンジュラス領内に侵入し反政府軍（コントラ）と交戦中」と発表し、即座にホン

ジュラス政府への二〇〇〇万ドル緊急軍事援助をおこない、また米軍はホンジュラス政府軍をニカラグア国境に空輸する作戦を開始した。しかしニカラグア外務省はこれを否定。ホンジュラス政府も当初はこれを否定したばかりか、米帝の発表は「コントラへの援助を議会に承認させるための戦術」とのべたのである。その後にはホンジュラス政府は米帝の圧力によって当初見解をひるがえし米帝のスポーツマンと化したが、肝心なことはその数日後、米議会上院においてコントラ一億ドル援助法案が可決され、下院での再審理にもちこむことにレーガン政権は成功したことである。

他方、ジリ貧のコントラにたいし、米帝・レーガンは懸命のこ入れをおこないつづけている。

五月一三日、ニカラグアの南と北の国境地帯に存在する反革命ゲリラが、米帝のあと押しを受けて統一することになった。コスタリカを出撃基地とする南部戦線の反革命ゲリラ、民主革命同盟（ARDE）ニカラグア革命後革命を裏切ったエデン・パストーラを代表としていたUNOの多数が、米帝の援助中止の圧力の結果、ニカラグア反政府連合（UNO）の傘下に入った。

米帝の実権は、ホンジュラスに基地を置き米帝の全面援助を受けるニカラグア民主軍（FDN）旧ソモサ国警軍を中心とする）によって握られている。ARDE多数派の合流によって反革命ゲリラは、北部一五〇〇人と、南部一〇〇〇人で構成される統一組織に再編された。

米帝はコントラの統一をなしとげ、軍事侵攻の布陣をいた。たとえばFDNは四万人への兵力増強と一年以内の臨時政府樹立を公言しているが、これが米帝の軍事侵攻と無関係になることはありえない。

米議会が対ニカラグア準軍事行動のため一九

〇〇万ドルを計上した八一年、ホンジュラスからコントラのニカラグア侵入が開始され、南北はARDEが八三年に侵入をはじめる。八四年以降、米帝の動きは急速にエスカレートし、コリント湾機雷封鎖（八四年）、対ニカラグア経済封鎖（八五年）とつづき、本年に入つてからは先にあげたニカラグア政府軍がホンジュラスに侵入したというデッヂ上げ（三月）や、ニカラグア国境からわずか四〇kmの地点に七〇〇〇人の軍隊を集結しておこなわれたホンジュラスでの合同軍事演習（カバニヤス86（六月）など、直接的軍事侵攻の準備が急ピッチで進んでいる。

### 挫折した中米和平工作

米帝のニカラグア軍事侵攻の危機が急迫化するなかで、コントラ・グループ（メキシコ、コロンビア、ベネズエラ、パナマ）を中心にして中米和平条約を実現しようとする工作が進められてきたが、本年六月六日、それはいつたん頓挫した。中南米諸国の米帝から一定の自立化の気運のあらわれとして耳目を集めたこの和平工作は、結局米帝のネグレクトによって中止せざるをえなくなつた。

本年四月に発表されたコントラ・グループとの支援グループ（ブラジル、アルゼンチン、ペルー、ウルグアイ）による和平提案は、①中米地域からの外国軍事基地と軍事顧問の撤退②軍備削減③国際監視組織の設置などをうたうものであつた。

和平交渉の過程では、米国の軍事侵攻を認めない旨の確約を中心としたニカラグアからの要求にたいし、親米派の中米四ヶ国（グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、コスタリカ）が抵抗し、またなによりも米帝自身が和平条約が締結されてもコントラへの軍事援助は中止しないと表明することによって、結局、コントラ・グループの仲介による中米和平の実現は先送りとならざるをえなかつた。

この和平工作を推進してきたコントラ・グループは、八三年一月にパナマのコントラ・グループに集まつたメキシコなど四カ国によって構成されたゆるやかな協議体であり、アメリカをのぞいて中米紛争の「ラテンアメリカ的解決」をめざすとしている。

コントラ・グループによる和平工作を生みだした背景には、まず何よりも米帝に抗してたたかうニカラグア革命への広範な中南米人民の共感があり、さらには米帝を筆頭とした帝国主義の過酷な榨取の産物である对外債務問題にみられる中南米人民の苦しみと反米感情の高まりが存在する。これを反映して支援グループのひとつであるペルーのガルシア大統領は、たとえ次のようにも主張している。「ニカラグアへの侵略行為がおこれば、ペルーは侵略した超

大国と断交も辞さない」（本年三月、アルゼンチン国会で）。

しかしコントドーラ・グループに代表的な中南米支配層が眞に恐れていることは、米帝のニカラグア軍事侵攻が引きおこすであろう各階級闘争の激化である。「中米に戦争がおこれば影響はラテンアメリカ全体を含む」（カプト・アルゼンチン外相）のであり、米帝の軍事侵攻によつて中南米全体の階級闘争と階級矛盾はまちがいなく激化するのである。このことを回避するためにこそ中南米の各国政権（その多くは軍政から民政移管によつて誕生したいわゆる文民政権である—この点についてはP.6参照のこと）は、必要ならばアメリカへの批判やニカラグアへの支持を公然と口にすることもないとわないのである。

したがつてプロレタリアートは中米問題の解決を、コントドーラ・グループ等に絶対にゆだねるわけにはいかない。中南米の文民政権がどのように厳しい反米姿勢をとろうとも、彼らもまた中南米ブルジョアジー・地主階級の代弁者にすぎない。さる六月十九日、ガルシア文民政権下のペルーで、刑務所内で決起した武装革命組織「センデロ・ルミノソ（輝く道）」に所属する政治犯四〇〇人以上が、軍隊によつて虐殺されるという事件が起つたが、それは文民政権の無力性と反階級性をさまざまと示すものであつた。

## 米に次ぐ位置占める日帝

われわれ日本のプロレタリアートは、中南米の問題を語るとき、米帝の強大な支配を指摘し批判するのみでは決定的に不十分である。いまや世界的規模での新植民地主義支配と侵略反革命をになおうとするまでに成長した日本帝王国義は、ラテンアメリカにおいてもその強力な経済力にものをいわせて、少くとも経済的には米帝に次ぐ位置を占めはじめようとしている。たとえば次のような事実がある。

八五一年一〇月、米、パナマ、日本はパナマ運河代替案調査委員会発足で合意した。今世紀最大のプロジェクトといわれる第一パナマ運河建設の本格的着手に、日帝が全面的に乗りだしたのである。現在のところ、三通りほどの計画案がだされているが、第一パナマ運河が建設されればそこをとおる船の過半は日本船籍となることが予想されるように、日帝にとつてこの計画のもつ意味是非常に大きい。

いまやODA（政府開発援助）世界第二位にのしあがつた日帝は、「国際國家日本」の名のもとに、ラテンアメリカをもふくめた新植民地主義支配に手をそめ、中南米諸国人民の新しい敵として登場はじめた。

七八年五月一八日にエルサルバドルにおいてインシンカ社事件がおこつた。エルサルバドル

の武装革命組織のひとつであるF.A.R.N（民族抵抗武装軍）は「アメリカ、ドイツとともに世界の低開發国を榨取する日本帝国主義」の代表としてインシンカ社（合併の織維会社）の日本人社長を誘拐し、当時のロメロ軍事独裁政権に、政治犯収容、治安維持法の撤廃などの要求

をつきつけた。

日本帝国主義が米帝とともに、中南米諸国プロレタリアート人民の反帝民族解放闘争への敵対者として立ちあらわるのなら、より大きな第一第三のインシンカ事件の発生は不可避である。

## ●ニカラグア革命七周年連帶

2

# 不屈にたたかうF.S.L.N.

米帝の全面的經濟封鎖と軍事的侵攻策動、また米帝に支援されたコントラとの内戦のなかで、F.S.L.N（ファラブンド・マルティ民族解放戦線）とニカラグアプロレタリアート人民は、困難であるが、だがしかしそれゆえにまたたく英雄的なたたかいをつづけてきた。

七九年のニカラグア革命は、米帝の新植民地主義支配とソモサ独裁を打倒した。それは反帝民族解放—民主主義の勝利であった。革命を勝利にみちびいたF.S.L.Nは反ソモサ派ブルジョアジーとの連合政府を樹立するとともに、他方でその出発と同時に反ソモサ派ブルジョアジーとの階級闘争をおこすすめてきた。反ソモサ派ブルジョアジーの多くは、七九年以降、次々と反革命へと転落していった。そしてF.S.L.Nは、サンディニスタ労働センターを軸にプロレタリアートを組織しつづけ、サンディニスタ人民軍を中軸とした全人民武装を組織しつづけた。しかしながらニカラグアはひきつづき「複数政党制」「混合経済」という、それ自身、総体として資本主義社会経済体制の枠内にある。だがそれはニカラグア革命の発展段階に対応した、國際・国内ブルジョアジーとの必要な妥協の産物にすぎない。したがつてそれは決して固定化されねるべきものではない。ニカラグアプロレタリアートは、帝國主義が強制するさまざまな妥協と困難に屈伏することなく、勝利した革命を共産主義革命へと転化・発展させるべく勇敢にたたかいつづけている。

## 共産主義の復権に寄与

今年はニカラグアを先頭にして反帝民族解放闘争を共産主義革命のもとへと結合させていくことの歴史的・国際的意義は、反帝民族解放闘争を共産主義革命へと発展させつづけようとするたたかいを、国際階級闘争のなかに復権したことにある。それはスターリン主義に支配された今日の国際共産主義運動の否定的現状のなかで、反帝民族解放闘争が結合すべき国際プロレタリアート、共産主義運動の不在という現実を強制せられ、イラン革命のようにイスラム主義との結合にその未来を託さざるをえないといふ痛苦な現実を打破するものであった。ニカラグア革命は中米はもとより、ラテンアメリカ全土、アジア・アフリカの反帝民族解放闘争に再度の希望と勝利への確信を与えるものであった。

今日、ニカラグアを先頭にして反帝民族解放闘争を共産主義革命のもとへと結合させていくことの歴史的・国際的意義は、反帝民族解放闘争を共産主義革命へと発展させつづけようとするたたかいを、国際階級闘争のなかに復権したことにある。それはスターリン主義に支配された今日の国際共産主義運動の否定的現状のなかで、反帝民族解放闘争が結合すべき国際プロレタリアート、共産主義運動の不在という現実を強制せられ、イラン革命のようにイスラム主義との結合にその未来を託さざるをえないといふ痛苦な現実を打破するものであった。ニカラグア革命は中米はもとより、ラテンアメリカ全土、アジア・アフリカの反帝民族解放闘争に再度の希望と勝利への確信を与えるものであった。

昨八五年、ニカラグア経済は最悪の状態を強いられた。米帝・コントラによる反革命テロによって八五年一年間で一四五二名が死亡し、反革命破壊活動による直接損害のみで輸出額の四〇%にあたる一億二二〇〇万ドルの被害をこうむつた。さらに米帝による全面的經濟封鎖など背景に国内経済は悪化し、対外債務は六八八

民族解放闘争の勝利は、フィリピン共産主義革命との結合なくしてありえぬことが、まったく明白になりつつある。

さらに中米・エルサルバドル、南米・ペルー、チリ、また南アフリカにおいても、反帝民族解放闘争の高揚のたなかから、プロレタリアートとその党の発展、共産主義革命との結合をめぐる流動と分岐が荒々しく生まれてきている。

このよろな反帝民族解放闘争と共産主義革命との結合をめぐる子国際的流動は、何よりもマルクス・レーニン主義の国際的復権のきざしであり、かつその要求のあらわれにほかならぬい。

## スターリン主義の犯罪性

ニカラグア革命の発展をひきつづき組織しつづけるためには、そのための経済的政治的条件を確保することが不可欠である。ニカラグアは小国であり（人口三〇〇万ほど、面積は日本の四〇%程度）、工業資源もとばしく、コーヒー、綿花生産などを主産業とする輸出国である。このような条件をもつ革命政権が、国際金融資本、国際食糧資本への経済的従属を断ちきり、帝国主義の政治的圧力と介入、革命破壊策動を打破するためには、国際プロレタリアートの物質的援助が不可欠である。それはたんにニカラグアのみならず、勝利した反帝民族解放闘争のほとんどが不可避に直面せざるえない問題である。

こう考えるとき、今日の国際共産主義運動を支配するソ連共産党をはじめとしたスターリン主義のはたす役割りは犯罪的である。

ソ連のニカラグアにたいする援助は、ニカラグアにおける共産主義革命の発展、国内階級闘争の前進に連帶するためにおこなわれているわけではない。ソ連がニカラグアに一定の援助をおこなうのは、ソ連の国家利害からみて、中米における反米政権の存在が彼らに利益となるからにすぎない。それは一国で樹立されたプロレタリア独裁権力を、世界プロレタリア革命の利益に従属させ、他国の革命闘争への犠牲的連帯を組織するという立場からのものとは反対に、ソ連一国の生産力の発展と、そのための有利な国際的環境の確保という見地からの援助であり、これに不需要ならばいつでも革命を平氣で見殺すものにほかならない。

では中国共产党はどうか。かつて反帝民族解放闘争の後背地としての位置を堅持してきた中国は、いまや反帝民族解放闘争への積極的支援を完全に投げていて。中共は生産力主義の立場から自國の生産力増強に必要な国際的条件の形成を主張するという、ソ共と同様の地平にまで転落しつつある。そればかりか、他方でソ連への対抗上、帝国主義とも積極的に手を結ぶ

という親帝路線は、国際階級闘争に有害な結果をもたらしている。

このよろなソ共スターリン主義や中共の現状に示される国際共産主義運動の否定的現実は、全世界のプロレタリアートにスターリン主義と

●ニカラグア革命七周年連帶

3

ニカラグア革命に連帶する運動は中南米や歐米で大衆的ひろがりをもっておこなわれているが、わが国においてこの数年、先進的労働者人民によってになわれ、また日共が独特の理論をもつてこれに関わっている。

日共はニカラグア連帶運動を労働者人民に一定の影響力をもつて組織してはいるが、その内実は国際主義的ではないばかりかきわめて排外主義的なものであり、またニカラグア革命の歴史的・国際的意義を歪曲するものである。彼らの誤りは次の二点に要約できる。

それは第一に、ニカラグアプロレタリアート人民のたたかいを「（アメリカ）」「勢力圏」主義をうちやぶり……世界諸国民の民族自決権を確立し擁護するたたかいの最前線」（第一七回大会決議一八五年一一月）と規定し、ニカラ

ガ人民の民族自決権擁護の陰にかくれて、帝國主義国内の抑圧民族に属す日本民族の民族自決権の擁護をも要求するという、とんでもない

立一般に解消してしまうのは實に意図的であり、彼らはこうすることで革命の意義を引き下げ、のみならず日本民族の自決（米帝からの独立）を声高に主張することに利用しようとしているのである。しかし帝國主義国、日本の民族自決権擁護とは、日帝の帝國主義権益の擁護と、中南米諸国もふくむ他国の新植民地主義支配のうえに成立する「日本の平和と繁榮」を擁護することにほかならない。このような主張は

日本帝を免罪し、排外主義の沼地に労働者人民を引きずりこむものである。

第二に、ニカラグア革命が帝國主義の包囲のなかで強制された妥協の結果である「複数主義・混合經濟・非同盟」などの政策を全面賛美し、今日のニカラグアが直面する共産主義にむけた苦闘に連帶するのではなく、むしろ反帝民族解放・民主主義革命の枠内におしとどめようとしていることである。日共は国際プロレタリアア

ートのニカラグア革命への連帶の組織化によって困難な壁を突破しようとするのではなく、もっぱらコンタドーラ・グループの和平交渉や国際司法裁判所にたいして過大な期待を寄せるばかりか、ラテンアメリカの革命運動が世界党不在の現状のなかで実践的にたたかいとつてき

証別した新しいインター（世界党）の建設、そしてそのための国際党派闘争の推進、プロレタリアートの国際的結合の促進を強く要求している。この歴史的事業への参加は現代の共産主義者（党）の第一級の任務である。

革命への広範な共感を作りだせ

不干渉の原則」をもつて否定し、革命の前進を阻害するとしているのである。

他方、かかる日共にたいする批判をもつて先进的労働者・学生のニカラグア革命連帶運動が取りくまってきた。しかしこの取りくみはニカラグア革命と連帶運動の大きな意義にもかかわらず、日共に比して大きく立ち遅れているのが現状である。

その内部においてもニカラグア人民との連帶の内実を、帝國主義の反動政策と戦闘的にたたかうことのみ切りぢめる傾向や、あるいは「複数政党制・混合經濟」というニカラグアの困難な現実を逆に「プロレタリア民主主義の新たな実践」と賛美するというような誤った傾向が存在している。

これらさまざまな傾向や日共に対する批判と闘争のうえに、われわれが構築すべきたたかいは次のものである。

第一に、ニカラグア革命連帶闘争を大衆的プロレタリア政治闘争として組織し前進させていくことである。今日のわが国階級闘争の現状は、ニカラグア革命連帶運動を労働者人民が大規模に取りくる条件を有しているわけではない。わが国の労働者人民はいまだ共産主義革命と遠くへだてられており、他国の階級闘争と切離されている。ニカラグア革命連帶運動は、わが国の労働者階級のなかに革命への希望と共感を広範に生みだし、自己の進むべき道を共産主義への結集として鮮明にさし示し、他国の階級闘争と革命運動の前進に連帶する決起を創出していくうえで重要な意義を有している。われわれはニカラグア革命連帶のたたかいを少数の孤立した運動におわらせるのではなく、わが国の階級闘争の現状を変革するに足る真に大衆的で階級的なたたかいとして組織していく必要がある。

第二に、ニカラグア革命連帶闘争を、帝國主義本国プロレタリアートの階級的責務として、自國帝國主義打倒、プロレタリア独裁の樹立の準備と結びつけて組織することである。ニカラ

グア革命にたいする帝國主義国プロレタリアートのもっとも力強い連帶活動は、革命を包囲する國際帝國主義の一員たる自國の帝國主義を打倒することと、ブルジョア独裁をプロ独立にとって

「国境をこえた革命」の意義をも、「内部問題題

かえ、樹立したプロテナツ派を他国の革命闘争へと犠牲的連帯の物質力へと転化すること——この長大な革命の事業と結びついてのみ可能となるのである。

ンタ（世界党）建設という歴史的事業と結びつけて組織することである。世界党の不在が二カラグア人民に多大な流血と困苦を強いていることを、全世界の共産主義者は胸にしつかりと刻みこんでおかねばならない。

切迫する米帝のニカラグア軍事侵攻阻止のた  
かに総力で決起せよ。ニカラグア人民と連  
帶してニカラグア革命防衛のたかに起ちあ  
がれ！

# 6・15 反中曾根の声反映し 日比谷に三千五百



「総決算」とかく闘う」と題する基調報告が菅孝行氏よりおこなわれた。菅氏は中曾根自民党政権と帝国主義を民衆の力で打倒しよう、ニュージャージー寄港阻止、アキヒト訪韓阻止をいまからたたかおうとのべ、参加者の熱烈な拍手で基調が確認された。

# 労動者階級の国際主義掲げ 諸団体が結集

大 阴

いう歴史的事業と結び  
る。世界党の不在がニ  
火と困苦を強いている  
義者は胸にしつかりと  
ない。

君！

をいつたい誰がどこへみちびいてい  
くのかである。社共や右翼日和見主  
義による反中曾根・改良政府要求の  
道ときっぱりと分岐し、資本主義・  
集会はあらためてわれわれに教えた  
切迫する米帝のニカラグア軍事侵攻阻止のた  
たかいに総力で決起せよ。ニカラグア人民と連  
帶してニカラグア革命防衛のたたかいに起ちあ  
がれ！

# 国際主義掲げ 諸団体が結集

---

6・15 大阪

---

労働者階級の国際連帯、政治闘争構築！六・一五大阪集会が、多くの労働者の結集をもってかちとられた。南朝鮮の階級闘争の前進と新たな分岐が進むなかで開かれた本集会は、種々の日和見主義ときっぱりとしたものを分かつて国際主義につらぬかれた集会としてたたかいとられた。

司会あいさつの後、喜士郎小久保利剛

り、帝国主義打倒と国際主義の質をもった政治闘争を構築していかなければならぬとの提起があり、神戸労働者政治委員会より、中曾根政治への政策反対ではなく、資本主義打倒にむけた陣形を建設していくといふ力強い表明がなされた。学校労研からは、先進的労働者は南朝鮮の光州蜂起から何を学ぶのかという問題提起がされ、全国労政電通班は、五・四闘争の成果をひきついだたかいいの発展と、大阪での大衆的政治闘争組織化にむけ全力でとりくむとの決意をあらわした。そして四・六集中会実からは滋賀での反天皇制のたたかいの報告がなされ、プロレタリア行動委（準）より、緊迫する南アフリカの情況と、国際連帯闘争の強化が訴えられた。

会には、三五〇〇名の労働者・学生  
・市民が結集した。

第一部の音楽の部をへて、二部の  
発言の部に入り、まずフリーピンの  
代表が発言に立った。アキノ政権下  
で政治的自由を、政治犯の釈放、労

各戦線から受け、最後に「中曾根政  
治を撃つ」反原発、反臨教審、反天  
皇、学生戦線などの発言をもって集  
会は終り、三千余名のデモと中曾根  
打倒の声が首都に響きわたった。

と曰帝の戦争・ファシズム準備に対する労働者人民の危機感を背景にして一定の高揚を示した。問題は六・一五集会にも反映した反中曾根の声

韓国民主回復統一促進国民會議（韓民統）の代表が発言に立った。韓民統の代表は、現在の韓国の民主制改憲闘争が米日資本の一掃と民衆民主主義のたたかいに発展したこと、こ

れにたいして全斗煥の断末魔の催促  
が吹きあれていることをあきらかに  
し、今秋に予定されているアキヒト  
の訪韓が歴史的暴挙であると弾劾し  
つつ、これの断固たる阻止を訴え  
た。

石川氏不当逮捕から23年  
**再審勝利にむけ**  
**狹山集会** 5・28

五月一八日、「石川一雄不当逮捕」の抗議書が、三カ年糾弾、特別抗告棄却一カ年を経て、五・一八中央総決起集会が日比谷野外音楽堂でひらかれ、全国から部落大衆・労働者・学生など力士が結集した。

めとした新証拠にたいし、いつざいの事実調べをおこなうことなく特別抗告棄却の決定を下してきた。この一年間に石川氏の無実を訴え、帰りをまちわびていた父・富造さんと姉・よねさんが他界した石川氏の無念、怒りにこたえ第二次再審闘争に必ず勝利しなければならない。

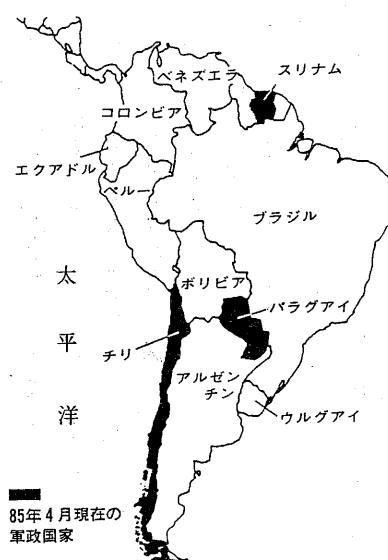
集会では弁護団から第二次再審請求申し立てを八月におこなうこととが報告され、また獄中の石川氏からよせられた力強いアピールが読みあ

前号烽火掲載の「全国学生共同闘争」報告記事において、参加者数三百を三百と誤報いたしました。おわびし訂正いたします。(烽火編集局)

前号烽火掲載の「全国学生共同闘争」報告記事において、参加者数三百を二百と誤報いたしました。おわびし訂正いたします。(烽火編集局)

# 国際連帶の闘いを

A・A・LA諸国人民 資料



85年4月現在の軍政国家

経済危機と人民大衆の反軍政闘争の高揚につき動かされて実現された「民政移管」は、各國ブルジョアジーの危機回避策であり、プロレタリアートにとって「民政」が意味をもつていていた。

中南米をおおった激しい政治変動の結果、軍政下にとどまる国はチリ、パラグアイ、スリナムの三カ国を残すのみとなった。しかし七三年にアジェンデ政権をクーデターで打倒して登場したピノчет軍事独裁政権下のチリにおいても、政治的自由と変革を求める人民のたたかいは大きくなり、八三年から一二波におよぶ「国民総抗議デー」が組織されている。

ソエト蜂起一〇周年を目前にした六月一二日、政府は全土に非常事態宣言を発令し、三〇〇〇人以上の活動家等を一斉逮捕し、軍を動員して大規模な事前弾圧をおこなった。しかし南ア人民はこれに屈することなく、一六日、約一〇〇万の労働者の出勤拒否によって事実上のゼネストをうちねいた。

中南米諸国におけるここ数年の情勢のきわだった特徴のひとつは、各国で軍政があいついで倒れ、「民政」への移行がつきついておこなわれたことである。七九年のエクアドルを皮切りに、ペルー（八〇年）、ボリビア（八一年）、アルゼンチン（八三年）、ウルグアイ（八四年）とつづいた「民政移管」の波は、八五年一月のブラジル民主運動党（MDB）のネベス候補当選をもってピークを迎えた。その後、八五年四月、ペルーでは野党アプラ（アメリカ革命人民同盟）のガルシア政権が誕生し、本年八六年に入つてからはいずれも米帝の大幅なテコ入れによつて、グアテマラでキリスト教民主のセレソ「文民」政権の成立（一月）、カリブ海の小国ハイチで五七年以来二九年間にわたつて独裁制を敷いてきたデュバリエ政権の崩壊（二月）などの事態がつづいた。

中南米におけるここ数年の情勢のきわだった特徴のひとつは、各国で軍政があいついで倒れ、「民政」への移行がつきついておこなわれたことである。七九年のエクアドルを皮切りに、ペルー（八〇年）、ボリビア（八一年）、アルゼンチン（八三年）、ウルグアイ（八四年）とつづいた「民政移管」の波は、八五年一月のブラジル民主運動党（MDB）のネベス候補当選をもってピークを迎えた。その後、八五年四月、ペルーでは野党アプラ（アメリカ革命人民同盟）のガルシア政権が誕生し、本年八六年に入つてからはいずれも米帝の大幅なテコ入れによつて、グアテマラでキリスト教民主のセレソ「文民」政権の成立（一月）、カリブ海の小国ハイチで五七年以来二九年間にわたつて独裁制を敷いてきたデュバリエ政権の崩壊（二月）などの事態がつづいた。

この「軍政から民生の時代への転換」とよばれる中南米階級情勢のさまわりの基底には、中南米全体で三六八〇億ドル（八五年）にのぼる对外債務の累積に示される深刻な経済危機が存在している。これは軍政時代に急速にすすめられた外資導入の結果であり、米帝を筆頭とする国際帝国主義への経済的隸属の帰結である。

第一次産品を中心とした輸出不振ともあいまつて、各国ですさまじいインフレが進行し（ボリビアでは八四年に年率二〇〇〇%、アルゼンチンでも一〇〇〇%をこした）、低賃金と失業、生活苦が労働者・農民をおそい、大衆の政治変革を求める動きが活発になった。ここ一、二年のあいだにエクアドル、アルゼンチン、ブラジル、ジャマイカ、ウルグアイなどでゼネストが決行され、ボリビア、ドミニカ、コロンビアなどでは大規模な労農の共同行動がおこなわれている。

中南米をおおつた激しい政治変動の結果、軍政下にとどまる国はチリ、パラグアイ、スリナムの三カ国を残すのみとなつた。しかし七三年にアジェンデ政権をクーデターで打倒して登場したピノчет軍事独裁政権下のチリにおいても、政治的自由と変革を求める人民のたたかいは大きくなり、八三年から一二波におよぶ「国民総抗議デー」が組織されている。

ソエト蜂起から一〇周年を迎えた南アフリカでは、アパルトヘイト（人種隔離）にたいするたたかいが始まっている。エルサルバドルでは五つの政治軍事組織で構成されるFMLN（ファラブンド・マルチ民族解放戦線）と大衆組織の統一であるFDR（民主革命戦線）が、米帝に支援されたドアルテ政権との内戦を勝利的にすすめている。解放勢力側は全国一四県のうち一二県で米・政府軍との戦闘をたたかい、八四年五〇〇〇人、八五年四〇〇〇人以上の損害を政府軍に与えている。グアテマラでは八二年一月に四つの組織によって結成された武装解放組織URNG（グアテマラ民族革命連合）が、軍事政権との武装闘争を開拓してきた。URNGのたたかいの前進のなかで、本年一月に大統領に就任したセレソ（キリスト教民主党）は、現在

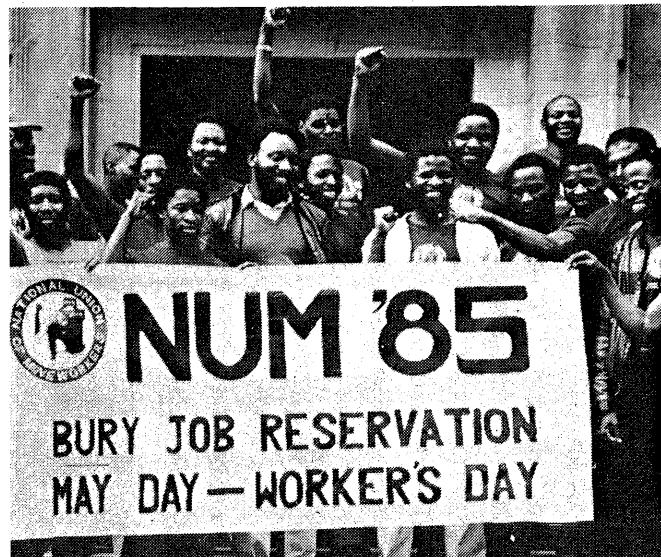
力、ラテンアメリカ）と呼びならわしてきた諸国のプロレタリアート人民のたたかいは、深まる世界資本主義の危機を背景としつつ、新しい高揚と前進を示している。ここでは中南米と南部アフリカの新しい動向を中心に、それらの現状を追つてみよう。

## 中 南 米



ネベス文民大統領の当選と民政移管に歓呼するブラジルの民衆 (85年1月15日ディオデジャネイロ)

## 南部アフリカ



全国鉱山労組(NUM)に結集する黒人労働者たち

こうした運動の高揚を支えているのはANC(アフリカ民族会議・一九二五年結成)に代表される黒人解放組織や、二〇〇万人が参加する人種をこえた反アパルトヘイト団体UDF(民主統一戦線・一九八三年結成)にみられるようなその高い組織性である。またNUM(全国鉱山労組・二五万人)など、組織された黒人プロレタリアートの政治的進出もすんでいる。

持続する反アパルトヘイト闘争にたいしボタ政権は、八五年四月に人

のNUM'85 BURY JOB RESERVATION MAY DAY - WORKER'S DAY

烽 火

の高揚を支えているのはANC(アフリカ民族会議・一九二五年結成)に代表される黒人解放組織や、二〇〇万人が参加する人種をこえた反アパルトヘイト団体UDF(民主統一戦線・一九八三年結成)にみられるようなその高い組織性である。またNUM(全国鉱山労組・二五万人)など、組織された黒人プロレタリアートの政治的進出もすんでいる。

持続する反アパルトヘイト闘争にたいしボタ政権は、八五年四月に人

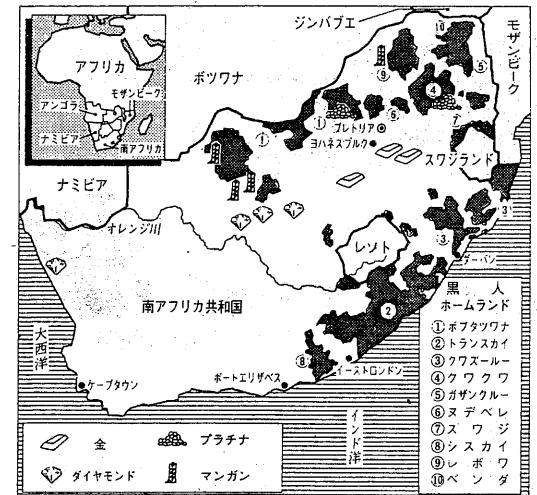
のNUM'85 BURY JOB RESERVATION MAY DAY - WORKER'S DAY

の高揚を支えているのはANC(アフリカ民族会議・一九二五年結成)に代表される黒人解放組織や、二〇〇万人が参加する人種をこえた反アパルトヘイト団体UDF(民主統一戦線・一九八三年結成)にみられるようなその高い組織性である。またNUM(全国鉱山労組・二五万人)など、組織された黒人プロレタリアートの政治的進出もすんでいる。

持続する反アパルトヘイト闘争にたいしボタ政権は、八五年四月に人

# 分断の壁つき破る

## 国際階級闘争の最前線に立つ



国際帝国主義に支援された南アブルジョニアーテ人民への弾圧にとどまらず、南部アフリカ諸国への許しがたい攻撃をつづけている。南ア政府は「テロリストの訓練基地に打撃を与える」と称して、アンゴラ、モザンビック、ボツワナ、ジンバブエ、レソト、ザンビアなどの国々にに

種間結婚禁止法、背徳法の廃止などをペテン的にうちだしつつ、他方で八五年七月と本年六月の二度におよぶ非常事態宣言発動にみられるよう、徹底した暴力的弾圧によってこれを庄殺しようとしている。

全人口(三〇〇〇万)の一七%にすぎない白人(五〇〇万)少数支配(非白人には参政権も居住・移動の自由もなく、黒人はホームランドとよばれる地域に隔離されている)を支えているのは、「戦略希少金属」の安定確保、資本輸出、シーレーン防衛、さらにはアフリカにおける反革命拠点の防衛に深い利害をもつ米帝を筆頭とした国際帝国主義である。そして南ア政府から「名譽白人」の地位を与えられているわが日帝もまた、南アに深く搾取の根をおろす帝国主義として(貿易実績は八四年度三四・五億ドルでアメリカについでいる)、南アのプロレタリアート人民に正面から敵対していることを忘れてはならない。

## アラブ

こうした運動の高揚を支えているのはANC(アフリカ民族会議・一九二五年結成)に代表される黒人解放組織や、二〇〇万人が参加する人種をこえた反アパルトヘイト団体UDF(民主統一戦線・一九八三年結成)にみられるようなその高い組織性である。またNUM(全国鉱山労組・二五万人)など、組織された黒人プロレタリアートの政治的進出もすんでいる。

持続する反アパルトヘイト闘争にたいしボタ政権は、八五年四月に人

の高揚を支えているのはANC(アフリカ民族会議・一九二五年結成)に代表される黒人解放組織や、二〇〇万人が参加する人種をこえた反アパルトヘイト団体UDF(民主統一戦線・一九八三年結成)にみられるようなその高い組織性である。またNUM(全国鉱山労組・二五万人)など、組織された黒人プロレタリアートの政治的進出もすんでいる。

持続する反アパルトヘイト闘争にたいしボタ政権は、八五年四月に人

い抵抗がくりひろげられている。本年一月政変以降のフィリピンでは、誕生したアキノ政権が国民の圧倒的多数を占めるフィリピン労農大衆の利害を本質的に代表できる政権でないことがあります明らかなことなかで、再度の人民の側の攻勢が準備されようとしている。情勢のカギを握る革命勢力の内部ではフィリピン共産党(CPP)が機関誌にのせた声明で、大統領選挙にさいして当たいして軍事侵攻をおこない、また反政府ゲリラの育成・經濟封鎖による結合関係を断ちきろうとしつづけてきた。隣国ナミビアにたいしては不当な支配をつづけている。南部アフリカ諸国が多くは独立後も経済的には南ア資本主義への従属関係を強化しており、南部アフリカの反革命的暴力(南ア資本主義の打倒は、南ア人民のみならず、これらの諸国のプロレタリアート人民にとっても第一級の課題なのである。

改憲闘争を軸にして大きく高揚しつづけてきた南朝鮮人民のたたかいは、全斗煥に抱きこまれようとする新民党と、民統連、全學連民青連などの戦闘的翼とのあいだで政治的分歧が拡大し、新しい局面に入った。学生を先頭として激化する反米闘争は、全斗煥に抱きこまれようとする新民党と、民統連、全學連民青連などの戦闘的翼とのあいだで政治的分歧が拡大し、新しい局面に入った。学生を先頭として激化する反米闘争

## 東アジア



南朝鮮・仁川での市街戦

の高揚を支えているのはANC(アフリカ民族会議・一九二五年結成)に代表される黒人解放組織や、二〇〇万人が参加する人種をこえた反アパルトヘイト団体UDF(民主統一戦線・一九八三年結成)にみられるようなその高い組織性である。またNUM(全国鉱山労組・二五万人)など、組織された黒人プロレタリアートの政治的進出もすんでいる。

持続する反アパルトヘイト闘争にたいしボタ政権は、八五年四月に人

の高揚を支えているのはANC(アフリカ民族会議・一九二五年結成)に代表される黒人解放組織や、二〇〇万人が参加する人種をこえた反アパルトヘイト団体UDF(民主統一戦線・一九八三年結成)にみられるようなその高い組織性である。またNUM(全国鉱山労組・二五万人)など、組織された黒人プロレタリアートの政治的進出もすんでいる。

持続する反アパルトヘイト闘争にたいしボタ政権は、八五年四月に人

の高揚を支えているのはANC(アフリカ民族会議・一九二五年結成)に代表される黒人解放組織や、二〇〇万人が参加する人種をこえた反アパルトヘイト団体UDF(民主統一戦線・一九八三年結成)にみられるようなその高い組織性である。またNUM(全国鉱山労組・二五万人)など、組織された黒人プロレタリアートの政治的進出もすんでいる。

持続する反アパルトヘイト闘争にたいしボタ政権は、八五年四月に人

